寄　　稿

第７回日本老年薬学会学術大会
優秀演題賞受賞者　インタビュー

受賞演題タイトル：
「要支援・要介護高齢者への訪問薬剤師導入に関連する因子：医療・介護連結データ分析」

受賞者：医療経済研究機構　田口怜奈
インタビュアー：日本老年薬学会雑誌編集委員会

・研究のきっかけを教えてください．

訪問薬剤師について，多くの人により正確に知っていただき，普及につなげたいと思ったことがきっかけです．私は，病院薬剤師として働いたあとに薬局の訪問薬剤師になったのですが，病院にいた頃の訪問薬剤師についての認識は漠然としており，実際に働き始めるとイメージと異なっていた部分もありました．医療機関という患者さんにとって不慣れな場所ではなく，自宅などの生活の場で自然体の患者さんを支援していくことにやりがいと意義を感じた一方，これを一薬剤師の個人的な感想にとどめず，学術的なエビデンスとしたいと思い研究を志しました．

・知りたかったこと，明らかにしたかったことは何ですか．

大規模で客観的なデータを用いて，訪問薬剤師が導入される患者さんの状態および導入に関わる因子の関連の程度を数量的に示すことを目指しました．薬局ごとの訪問対象患者さんはそれほど多くなく，大規模データを用いた全体像の把握は不足しています．また，近年，行政を含めて訪問薬剤師について期待や注目がされている中で，多くの人がより正確な認識をもって議論できるような客観的な現状分析が有用だと考えました．

・最も伝えたかったことを教えてください．

約２万人の地域在住後期高齢者のレセプトデータを分析した結果，訪問薬剤師の導入と関連の強い因子として，訪問診療・入院・居住系施設の入居が同定されました．訪問薬剤師が導入された患者の特性は一様ではなく，求められている役割が異なる可能性があります．また，入院という因子の影響が大きいことが新たに明らかになったことから，退院直後に訪問薬剤師のニーズが高い可能性や，入院によって患者さんや家族の意識が変わり在宅サービスを利用する可能性，あるいは，病院の地域連携室や退院支援スタッフが訪問薬剤師導入の橋渡しをしてくれている可能性が考えられます．

・苦労した点はどこですか．

訪問薬剤師の「導入時点」の分析にこだわったところです．自身の臨床経験から，訪問薬剤師が導入される時点と，安定して継続訪問されているときでは患者さんの状態が異なっていると考え，導入される時点に特化した研究を実施したいと思ったものの，対照群の設定で壁にぶつかりました．多くの方にアドバイスをいただきながら，コホート内症例対照研究の手法を用いたマッチングという研究デザインにたどり着きました．

・今後の目標を教えてください．

今後も，訪問薬剤師のよりよい在り方についての議論に寄与できるような研究を続けたいです．本発表では訪問薬剤師が導入される時点のみに着目していたので，今後は導入後の継続的な薬学的管理などに焦点をあてた研究を実施していきたいと考えています．

・日本老年薬学会に期待することは何でしょうか．

高齢化が進むわが国では，高齢者の薬物治療の適正化を研究・啓発することは大変有意義だと考えます．本学会がこのような課題に多方面から取り組む場となることを期待し，さらなるご発展をお祈り申し上げます．